大草谷津田生きものの里 自然観察会

冬越しするムシたち

木下順次（千葉市）

日　時：2024 年 12 月 15 日（日）10:30～12:00　　天候：晴れ
参加者：5 名（大人 3 名　子ども 2 名）
担当指導員：太田　萩　木下、参加指導員：相吉、内島、岡田、奥村

ここ数回、参加者の応募が極端に少なくなりました。今回も３組７名の申し込みです。しかも当日2名のキャンセルがあったため、５名での観察会となりました。

天気がよく風もなかったので、観察会日和となりましたが、いかんせん人数が少ないのでみんな少しおとなしめです。ただ、ヤツデの葉っぱと赤い実で作るウサギにはお子さんも喜んでくれました。観察会の途中、自分でも葉をとって作っては、最後までしっかり持って帰っていきました。

太田さんからいきものの冬越しについてのお話―どんな姿で（卵？ 幼虫？ さなぎ？ 成虫？…）、どこで（葉の裏？ 落ち葉の中？ 朽木の中？…）寒さをしのいでいるのか―、をしていただいたあと出発しました。

駐車場にも冬越しするいきものはたくさんいます。案内板わきの物入れの中にはここ一年程ヤモリが住みついていますが、この日も４頭身くらいのかわいいヤモリの仔が一匹いて参加者も喜んでくれました。

卵で…チュウゴクアミガサハゴロモの卵塊、ジョロウグモやオオカマキリの卵のうを観察していると、その脇にジョロウグモの生き残りがいました。寒さで動きが鈍く手に取って観察しやすいのですが、子どもは恐る恐る触ってみるも、どうしても触れない親御さんも。

幼虫で…湧水横の水底の泥から掬い上げておいたトンボのヤゴはみんな知っていましたが、コナラの葉の上に見つけたテントウムシの幼虫の抜け殻は、成虫とはずいぶん形が違うので皆びっくりしていました。

成虫で…樹名札の裏側にはヤニサシガメ、カニグモがいます。ヤツデの葉裏にはニホンマイマイの赤ちゃんがじっとしています。コナラの苗木とササ藪の旧スギ林では陽だまりの中にツチイナゴ、ナミテントウの姿を見ることができます。萩さんからはここでも形の面白いオオトリノフンダマシ（円錐形）やナガコガネグモ（徳利型）の卵のうを紹介していただきました。

途中クロスズメバチがハラビロカマキリを捕食していたようで（自分は見られなかった！）、最後に聞いた感想ではこれが一番印象に残ったと話されました。例年ですと、ウラギンシジミが葉の裏で越冬しているのが見られるはずが、見つけることが出来なく残念に思っていたところ、最後にウラギンシジミの飛んでいる姿を見て、今日の観察会を終了しました。